

農村計画学

2016年12月7日の出席票より

景観の評価

- 景観は定性的なものと思うが、定量的な評価法はありますか。
→相対的な定量化はありえます。
- 前回の講義で、景観の定量化に関する質問をしましたが、今回の講義でそれに近いことをできたのが面白かったです。
→結果を見て下さい。
- 景観解析を評価する際は、もっと客観的な指標を入れた方が良いと思いました。→私もそう思います。客観的の定義が難しいですね。

棚田

- 棚田は、生産活動と景観が非常に調和している。→文化的景観の定義そのものですね。
- 棚田オーナー制度の実績が知りたい。市民農園よりも交通アクセス等が悪そうな場所にあり、うまく運用されているとは考えにくいから。→実績は、12/14に紹介します。交通アクセスの不自由性については、別の要因も含めて考える必要があります。
- 棚田は農地としては確実に効率が悪いので、農業全体が廃れていく中で、保全にも取捨選択が必要ではないだろうか。→その通りです。実際にそうなっています。
- 中山間地域等直接支払制度は、農地の持続に対して効果があるのですか？→農地と地域社会が存在しているところについては、維持効果があります。

美しい村

- こういう団体が日本にもできたことが嬉しい。国民がこのような取り組みに関心を抱き、大きな産業(ツーリズム)と結びついて、発展してほしい。→ですね。
 - 小さな村でも、良いとりくみをしていれば、発信力によっては大きな成果につながりやすい。→ですね。
- しかし
- 観光客のマナーの悪さが原因で伐採されることについて、観光客に対する対策を考えるべきと感じた。→ですね。
 - バリ島などの棚田では、世界遺産に登録されることによって、観光客の増加以外の地元住民への直接的なメリットは何かあったのでしょうか。→「直接的」が何なのかは難しいところです。「村が元気に」なったことは、棚田オーナー制度の場合も含め、あったと言えます。